

図書館学教育研究グループ研究例会報告

第127回研究例会

テーマ：地域性を意識した司書養成の試み

発表者：桂まに子氏(京都女子大学専任講師)

日時：2008年11月1日(土) 14:30~17:30

会場：同志社大学寒梅館6階大会議室

出席者：14名

京都女子大学の桂まに子氏が「地域性を意識した司書養成の試み」というテーマで発表された。桂氏は米国留学時に感じられた「日本の図書館との大きなギャップ」が、図書館情報学研究へ進むきっかけとなったそうである。研究の関心は「公共図書館と地域資料」であり、公共図書館に関するアクションリサーチを通して、地域資料・情報提供システムの構築を考えることが目下のテーマである。司書養成においても、地域性をもっと意識すべきではないか、という提案は大学における司書課程の明確な位置づけとして説得力を持つものである。

〈発表概要〉

桂まに子

2008年6月11日に施行・公布された「社会教育法等の一部を改正する法律」による図書館法の一部改正にともない、「大学における図書館に関する科目」が省令科目として規定され、2010年4月より各大学で新カリキュラムの導入が始まる。そのため、司書課程の科目の再構築がなされている現在、大学における司書課程のあり方についても見直す必要があると考え、本発表では、大学が所在する地域の特性を活かした図書館学教育の可能性を提案した。

これまで一貫して「公共図書館と地域資料」に関する研究を進めてきたが、以下紹介する実践例の理解のために、最初に地域資料について簡単に説明しておく。公共図書館の地域資料は「郷土資料」とも呼ばれ、図書館法第3条第1項において収集に十分に留意するよう規定されている資料群である。『地域資料入門』(1999)では、「地域で発生するすべての資料および地域に関するすべての資料」と定義されている。主な地域資料としては、古文書・古記録、行政資料、図書、新聞、雑誌、地図、リーフレット、チラシ、写真、音声・映像資料などが挙げられる。

〈地域性を取り入れた教育実践〉

2005年から3年間、非常勤講師として3つの大学の司書課程科目を担当した。その際、授業内容の一部に地域資料に関する知識と、地域性を意識した図書館サービスの視点とを含めた授業設計を行ってきた。以下、資料組織演習、図書館特論、図書館サービス論の3科目を中心に、当該大学の特徴と授業内容を紹介する。

・資料組織演習

首都圏にある文系に特化した公立大学で、教員を目指す学生が多く、様々な地方の出身者が在籍する点が特徴的である。

授業目標は一般図書の資料組織を学ぶことにあるが、それに加えて地域資料の種類や分類について教授し、一般図書との違いを理解させるように努めた。座学の他に、実際の地域資料に触れるために大学図書館が所蔵する地域資料(特別資料室など)を見学した後、学生はそれぞれ出身地の公共図書館を訪問して、その地域資料の分類や種類を調査する。さらに、各自の調査結果をクラスで報告する。具体的には、自治体発行の行政資料が多く紹介された。また、富士山(静岡)、公害(四日市)、原子力発電(敦賀)、震災(神戸)など、地域性が顕著に現われている資料も紹介された。その他、地域に関連した雑誌、写真、ビデオ、楽譜など、図書以外のメディアも紹介され、地域資料の種類豊富さと地域ごとの図書館サービスの違いを理解させることができた。

・図書館特論

東京都内にある私立大学で、区内には図書館員の他に地域の情報を提供する民間のコンシェルジュのいる公共図書館が存在する。

授業目標は、地域資料の視点から公共図書館の現状と問題点について考えることである。地域資料の歴史と基礎的な知識を習得した後、大学が所在する区の公共図書館を訪問し、地域資料の種類や地域性を活かした図書館サービスについて学ぶ。身近にある公共図書館が指定管理者制度を導入した全く新しいタイプの図書館であったため、学生の多くは出身

地の公共図書館のサービスと比較して、地域により図書館の運営方法やサービス内容も異なることを理解した。また、都道府県立図書館のホームページを閲覧し、ホームページ上で提供される地域資料・情報や地域特有の図書館サービスを確認させた。最後に、様々な図書館の事例にもとづいて学生自身に地域に根づいた図書館の理想像を考えさせた。

・図書館サービス論

生涯学習に特化したインターネット大学で、20～40代を中心に毎学期約180名が受講する。

eラーニング方式のため、学生はテキスト学習と3回のレポート提出により図書館サービスについて学ぶ。対面形式ではないことから、レポートの課題が学生の学習内容を左右する。従って、最初の2回の課題は、テキスト学習の理解を確認すると同時に、身近な図書館の利用を促してサービスの実態をレポートに反映させるよう設定する。学期末のレポートは「図書館と地域」という視点で学生にテーマを自由に設定させ、各自が考える地域における図書館の役割について述べさせる。提出されたレポートは、そのテーマが地域格差の問題から市町村合併の影響、高齢者サービスの強化にまで及び、受講者の年齢や職業、居住する地域によって内容が大きく異なった。このように課題に「地域」の要素を加えることにより、テキストや関連文献から得た図書館サービスに関する知識に奥行きと広がりを持たせることができるであろう。

〈教育効果と今後への期待〉

地域性を取り入れた3つの実践例に共通する教育効果は、図書館の機能が地域によって異なるということを学生が自然に学習できる点にある。大学の司書課程を受講する学生にとって身近な図書館は大学図書館であり、大学が所在する地域の公共図書館である。司書になる以前にできるだけ多くの他地域の図書館を見学して、様々な図書館のあり方を理解し、図書館が直面している問題点について考えた経験は、図書館員になったときに必ず活かされるであろう。

「図書館と地域」という視点は、司書課程の他の科目においても採用可能であると考えられる。例えば、大学図書館や身近な公共図書館の歴史を学ぶ、大学のある地域に関するレファレンスや情報検索の演習を行う、大学図書館と公共図書館の経営の実態を比

較する、等々である。図書館に関する一般的な知識を教授するだけでなく、授業内容に地域性を付加することによって、大学における司書課程はより実践的かつ充実した内容になるであろう。公共図書館が地域に根ざしたサービスを提供するように、大学もそれが所在する地域の特性を活かした図書館学教育を展開することが可能であると考えられる。

(文責：中島幸子 帝塚山大学)

◆図書館学教育研究グループ研究例会案内◆

〈第129回研究例会〉

日時：2009年3月28日(土) 14:30～18:00(頃)
場所：同志社大学至誠館3階大会議室
テーマ：『インフォメーション・パワー』のその後と『Know It All』
発表者：柳 勝文氏(龍谷大学)
概要：『インフォメーション・パワー』(1998)刊行後の、アメリカにおける学校図書館基準に関連する動きを『Know It All』(動画教材)や『21世紀の学習者のための基準』などを紹介しながら報告する。

〈第130回研究例会〉

日時：2009年5月30日(土) 14:30～18:00(頃)
場所：同志社大学寒梅館6階大会議室
テーマ：「大学における図書館に関する科目」策定の動きと今後の課題(仮題)
発表者：柴田正美(帝塚山大学)
概要：新カリキュラムの成案が出来たことをうけて、それを各養成現場に効果的に根付かせ展開させる方策について考える機会をもつことにする。会員各位の積極的な参画で、図書館現場の要請を踏まえた多様な選択肢のなかからそれぞれの養成現場に最適なものを模索するときの参考に供したい。

問合せ先：柳 勝文(事務局) anb18968@nifty.com
TEL+FAX：075-241-4668